



海でつながる
プロジェクト
—海に想いを。—

日本
財団
THE NIPPON
FOUNDATION

海と渚の クリーンアップ活動

2015年版

指導者用 海浜清掃ハンドブック

目次

漂着物は悪者か	2
海のごみをなくすためには	3
海と渚のクリーンアップ活動 を始めるために	7
さあ、始めよう！ 海と渚のクリーンアップ	9
全国で展開される 海浜等の清掃活動	13
現地からの海浜清掃報告	15
海浜清掃に行こう！	16
海浜等清掃活動における ごみの回収状況	17

このハンドブックは2015年日本財団の助成金及び皆さまからいただいた海の羽根募金で作成されています。

ご意見、お気づきの点がありましたら、下記までご連絡下さい。

公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-24湯島ベアビル7階
電話：03-5800-0130 FAX：03-5800-0131
Email:info@umitonagisa.or.jp http://www.umitonagisa.or.jp

イラスト 加藤都子

漂着物は悪者か？

「名も知らぬ 遠き島より 流れ寄る 椰子の実一つ」で有名な「椰子の実」は島崎藤村が親友の柳田國男の体験談を基に作詞しました。ここに出てくる「椰子の実」は「漂着物」と思われます。また、「磯の香(か、かおり)」や「磯の匂い」といった表現は漂着した海藻などが分解(腐乱、発酵)した匂いが元と考えられます。砂浜だって、川から流れ出た「砂」が堆積したものです。また、最近は流木被害も増えているようです。これは山の手入れが不十分だったり、集中豪雨が多くなったりしていることが原因として考えられます。

物が海岸に漂着する現象は、人類が地球上に出現するはるか以前からあります。

参加者の方には、物が漂着することは、自然現象で、問題は何が漂着したかであることや、海岸清掃を通して日常生活や自然環境について考えてみることを伝えてほしいと思います。

海のごみをなくすためには

ごみの種類・発生源を知ろう

自然のサイクルの中で分解されにくい人工物ごみが問題となっています。海岸に散乱するごみは、大きく人工物ごみと自然物ごみに分けられ、多くの人工物ごみは自然のサイクルの中で分解されにくいごみです。

人工物ごみ

● 紙・布類 ● ガラス、陶器類 ● プラスチック

● 缶等の金属類 ● その他



自然物ごみ

● 流木・草等 ● 貝殻・海藻等



身の周りに安易に捨てたごみが 海岸を汚しています。

海岸に散乱するごみを発生場所別に分けると・・・

①陸上で捨てられたごみが河川などを通じて
海に入り、結果的に海岸に漂着したごみ

 内陸ごみ 河川に捨てられたごみや陸上に散乱していたごみが河川に流入し、



これらが海に流し出されたもの。
身の周りに安易に捨てられたごみ(ペットボトルや空缶など)もある。

②直接海や海岸に捨てられたごみ

 海岸ごみ 観光客、海水浴客、釣り客などレクリエーションの場として海岸を訪れた人が直接海岸に捨てたもの。

 海洋ごみ 網・ロープ片など船上活動に伴い廃棄したもの。 

これらが海岸を汚す大きな原因となっています。

海岸ごみの特徴を知ろう

海岸に散乱するごみは砂と混ざり、海水を含んでいるために燃えにくく、焼却施設の金属部分の腐食を早めるなど、処理の上でも多くの問題があります。

散乱ごみの回収・処理を進めるに当たっては、海岸ごみの特徴を充分知っておく必要があります。

ごみを増やさない三原則

出さない

捨てない

持ち帰る



このようなルールを守ることが海岸ごみを無くすための基本です。

しかし、すでに海岸に散乱しているごみについては回収しなければ無くならないだけでなく、細分化され回収が困難になります。

そこで海岸に散乱したごみの回収・処理をより多くの人々や団体・組織などが連携を保ち進めていくことが大切です。



と渚のクリーンアップ活動を始めるために

行動計画を立てよう



海と渚のクリーンアップ活動を始めるためには、その地域における散乱ごみの実態や回収したごみの処理システムなどを事前に把握し、組織体制、活動スケジュールなどを盛り込んだ行動計画を立てるとともに、処理や活動の経費を計上しておくことが重要です。

特に回収したごみ処理の手続きは地域によって異なるため、地元自治体、河川や海岸の管理者などの関係機関と事前に連絡を取り、慎重に進めていく必要があります。

いつ



活動実施日や活動回数を決め、そのための準備期間を含めた活動スケジュールを立てます。

だれが



周辺の地域で既に活動している組織団体や関係機関との連携を図り、しっかりとした組織体制の下で活動の輪を広げます。

どこで



対象とする場所、範囲を明確にします。

どのように回収して



種類別を集める、大きさ別を集める、危険物を分ける、担当を決める、などの回収方法及び役割分担を決めます。

どう処理する



海岸に散乱するごみに関しては、処理方法、処理費用の面でトラブルが発生することがあるので、関係機関と連絡をとり、ごみの搬出先や費用の負担元を決めておきます。

その際の費用は



回収や処理などに要する費用については、助成の有無、スポンサーの有無について調べておきます。



あ、始めよう! 海と渚のクリーンアップ

海浜等清掃活動に参加している団体は、当機構が平成25年度に調査したところ、多い順に①市町村などの行政関係者(40%)、②地域住民(25%)、③漁協や海運などの水産運輸関係者(9%)、④企業(8%)、⑤学校(4%)となっています。皆さん海浜・河川の清掃を行っており、その主たる目的も「海岸の美化」や「漁場・港湾環境の保全」にとどまらず、「青年部、町内会などの地域のコミュニティ活動の活性化」、「小中学生の課外活動」、や「企業の社会的責任(corporate social responsibility)」にまで広がり、今では消費者の社会的責任(consumer social responsibility)、市民の社会的責任(citizen social responsibility)ということまで言われています。本ハンドブックは参加主体自らが、「海岸・河川の清掃活動」に参加することにより、「ごみ」とは何か。「ごみ」はどこから来たのか。放置すればどのような問題が起こるのか。どうすれば「ごみ」はなくなるのか。「ごみ」がなくなればどんな良いことがあるのか。それぞれの立場で、こういったことを考える材料を提供できると思います。

どうぞ、一緒に海浜等清掃活動に行きましょう。



用具や備品を準備する



活動範囲やごみの実態に合わせて、次のような清掃用具を準備しておくると便利です。用具や機械の準備についても、事前に関係機関に相談してみましょう。

清掃用具

- ・ごみ袋、軍手
- ・熊手、竹ぼうき、ごみばさみ
- ・シャベル、スコップ
- ・一輪車やトラックなどのごみ運搬車両
- ・パワーショベルなどの積込み機械
- ・ビーチクリーナーなどの回収専用機械



その他の備品

- ・長靴、帽子、タオル、飲料水
- ・ハンドマイク
- ・救急箱
- ・行事参加者傷害保険等
- ・テント、のぼり旗
- ・活動内容やごみの集積場所などを表示する看板類



危険なごみを知る

海岸のごみには触れると危険なごみもあります。

危険なごみを見つけたら、直接触れずに地元自治体、河川や海岸の管理者等の関係機関に連絡しましょう。また、子供達には、必ず近くにいる大人に声をかけさせましょう。

危険なごみとは

注射器・針

刺さるとケガをしたり、ばい菌に感染することもあるので危険です。

ポリタンク等の容器

薬剤などが残っていると肌に触れて炎症を起こしたりするので危険です。

ガラスの破片

触るとケガをしたりするので危険です。

動物の死骸

クラゲなど死んでも毒が残っている場合があるので触れると手が腫れたりして危険です。

その他

容器のフタを開けない。中に残っていた薬剤でケガをすることがあります。消火器など普段から手に触れない物には手を触れるのは避けましょう。

活動内容を知ってもらう



当日、活動を始める前に、清掃範囲、実施時間、対象とするごみや回収方法、集積場所と集積方法などについて参加者に簡潔に説明しておく必要があります。

集めたごみの処理



集めたごみはあらかじめ決めておいた方法できちんと処理することが大切です。せっかく集めても処理できなければ、また散乱ごみのもととなります。その日に処理できないごみについては、処理日または収集日まで、飛散しないように保管することも考えて計画する必要があります。

活動記録をとる



活動日時や参加者数、参加団体名や回収したごみの種類とおおよその量などを記録し、そのデータを今後の活動に活かしましょう。回収前のごみの散乱状況や集めたごみ、活動状況などを写真で記録すると、活動の成果がより明らかなものとして記録できます。

全国で展開される海浜等の清掃活動

毎年、各地で集中豪雨や台風が大きな災害をもたらしています。大雨で流れ出した様々なごみが河川を通じて、海に流れて全国の海岸、さらには海外にも漂着します。また、海外から流れてきたと思われる外国語表記のあるごみも漂着します。

こうした海岸に漂着するごみ、海に漂うごみによる環境や生態系への影響も心配され、最近では地域で実施される海岸や河川の清掃活動に年間約100万人が参加するようになりました。

当機構では約20年前から全国に海浜、河川の清掃活動を呼びかけ、毎年50万枚のごみ袋を提供して活動を支援しています。また、これらの活動状況を地方自治体の協力を得て調査し、①清掃活動で回収したごみの内容などを調べた「海浜等清掃活動実施状況調査報告書」、②のような団体が活動をしているのかを調べた「海浜等の美化活動事例調査報告書」をまとめています。

平成25年(1～12月)に実施された清掃活動についての調査では32都道府県から回答いただき、延べ1万3,030回の清掃活動が行われ、延べ86万人が参加したことがわかりました。



● 清掃実施場所別の清掃規模と参加人数 (平成25年度調査)

		全体	海岸	河岸	湖岸	海域
清掃人数 (人)		863,231	607,385	201,331	36,068	18,447
清掃距離	延べ距離 (km)	14,398	11,090	2,679	629	—
	実距離 (km)	8,882	6,967	1,383	532	—
	面積 (km ³)	1,457	—	—	—	1,457

延べ清掃距離を参加人数で除した1人あたりの清掃距離は、海岸が約26m、河岸が約15m、湖岸が約18m

● 種類別ごみの回収量 (平成25年度調査) (単位: m³)

種類	全体	海岸	河岸	湖岸	海域
布・紙	227 (0.5%)	134 (0.3%)	93 (6.2%)	1 (8.7%)	0 (0.0%)
材木、木片等	1,375 (3.2%)	1,082 (2.6%)	291 (19.5%)	1 (4.4%)	2 (0.7%)
ペットボトル	420 (1.0%)	347 (0.8%)	65 (4.3%)	2 (13.1%)	7 (3.3%)
弁当箱、トレイ	117 (0.3%)	98 (0.2%)	14 (1.0%)	1 (8.7%)	3 (1.4%)
ロープ、網	229 (0.5%)	147 (0.4%)	36 (2.4%)	0 (0.0%)	46 (21.7%)
缶類	278 (0.7%)	228 (0.6%)	47 (3.2%)	2 (17.5%)	1 (0.2%)
ガラス	42 (0.1%)	33 (0.1%)	8 (0.6%)	1 (8.7%)	0 (0.0%)
人工物その他	30,624 (71.6%)	30,347 (73.9%)	263 (17.6%)	4 (38.9%)	8 (4.0%)
人工物計	33,312 (77.9%)	32,416 (78.9%)	818 (54.8%)	11 (100%)	67 (31.3%)
流木	3,685 (8.6%)	2,988 (7.3%)	593 (39.7%)	0 (0.0%)	104 (48.9%)
海藻	195 (0.5%)	162 (0.4%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	32 (15.0%)
自然物その他	5,596 (13.1%)	5,503 (13.4%)	83 (5.5%)	0 (0.0%)	10 (4.7%)
自然物計	9,475 (22.1%)	8,653 (21.1%)	676 (45.2%)	0 (0.0%)	146 (68.7%)
合計	42,788 (100%)	41,069 (100%)	1,494 (100%)	11 (100%)	213 (100%)

注1 各欄の値は四捨五入しているため、人工物計・自然物計・合計はその内訳の合算と一致しない場合がある。

注2 ここでのごみ回収量はごみの種類を把握している場合のみの集計値である。

* 海浜等清掃活動の状況調査の詳細は当機構ホームページ (<http://www.umitonagisa.or.jp>) をご覧下さい。

現地からの海浜清掃報告

全国から届いた海浜清掃報告の一部をご紹介します。

北海道



大勢の参加者による地道な清掃活動が最も効果的でした。

福井県



船で沿岸域のごみを拾いました。

静岡県



若い人の確保、運搬用トラックのメンテナンスと保管が課題です。

愛知県



ウミガメが安全に産卵できるように海岸を清掃しました。

愛媛県



今回の清掃活動では生簀の大型フロートが多く漂着しており回収運搬に苦慮しました。

大分県



大雨の影響で河川から流出したとみられる大量の葦や漂着したペットボトルを撤去しました。

～ 全国の海浜清掃報告は当機構ホームページで随時更新しています。～

海浜清掃に行こう！

漂着ごみがあると、どんなことが起きるだろう?!

海鳥が食べて死んでしまうこともある。

ウミガメ*だって、気持ち良く産卵できない。

ノリや岩ノリ、アオサやシラスに混ざると

食べられなくなる。

景観も悪くなるし、

「鳴き砂」だって鳴(泣)くに鳴(泣)けない。

「海浜清掃」は誰でもできる活動だ。

どんなごみが拾えるかな!

見慣れた物が多くてびっくりするかもよ!

*ウミガメは漂流しているビニールを餌のクラゲとして誤飲することもあります。

海浜等清掃活動におけるごみの回収状況

清掃活動の規模（平成25年度）

清掃距離 14,398km
 清掃面積 1,457km²
 清掃人数 863,231人
 ごみ回収量 42,788m³

凡例

□ 回答が得られなかった府県

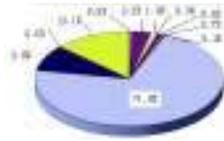
■ 回答が得られた都道府県

回答が得られた都道府県であっても

種類別ごみ回収量の報告がなかった場合にはグラフがありません。



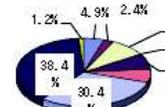
合計



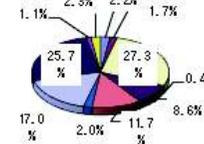
平成25年度は調査を実施していない。

【北海道・東北地方】

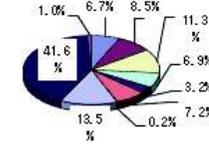
北海道



青森

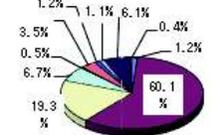


山形

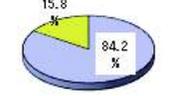


【関東地方】

千葉

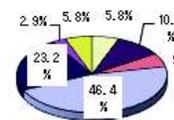


神奈川

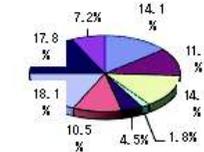


【北陸地方】

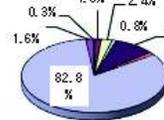
新潟



富山

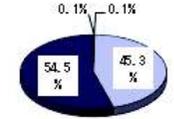


福井

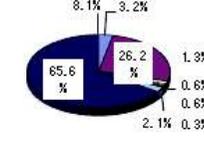


【東海地方】

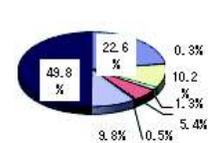
岐阜



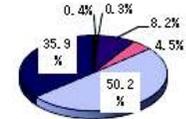
静岡



愛知

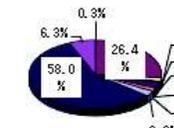


三重

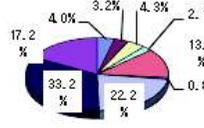


【近畿地方】

兵庫

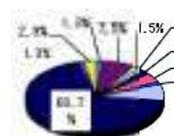


和歌山

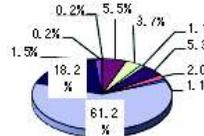


【九州・沖縄地方】

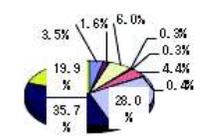
佐賀



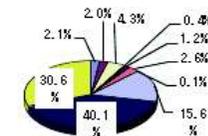
長崎



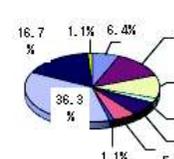
熊本



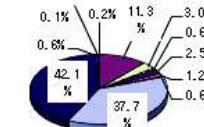
大分



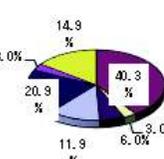
宮崎



鹿児島

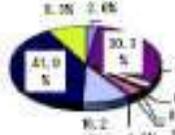


沖縄

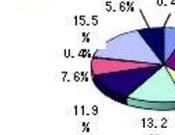


【中国・四国地方】

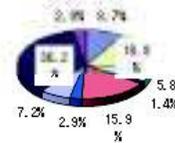
岡山



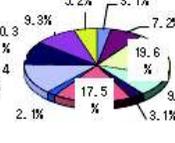
島根



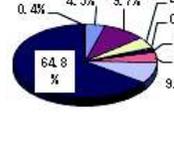
徳島

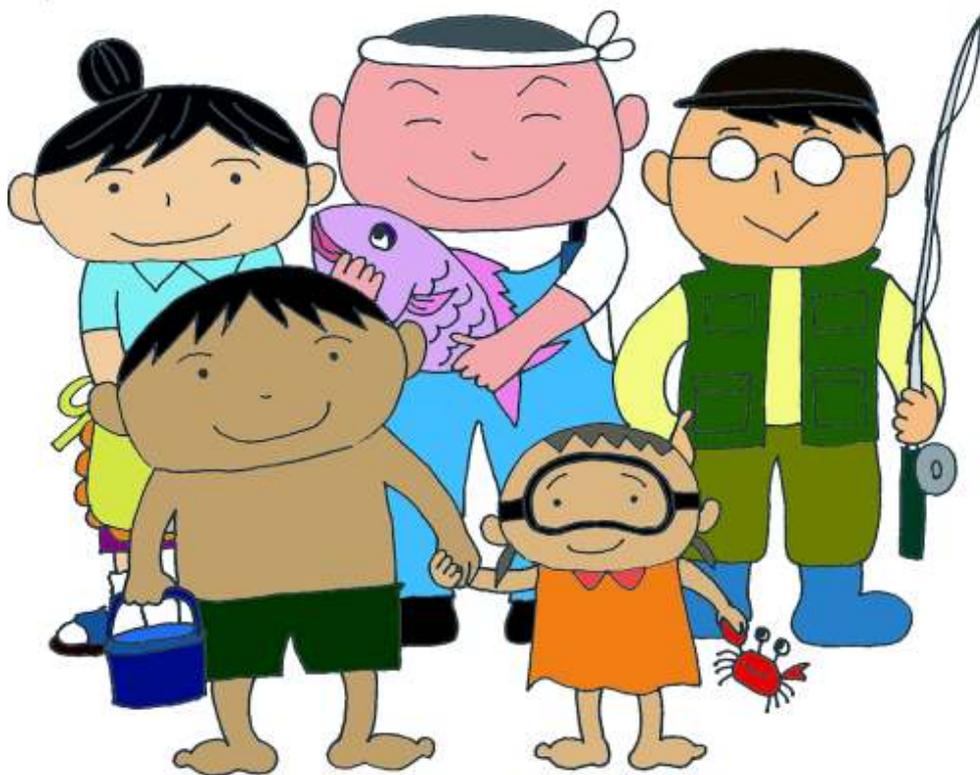


香川



愛媛





公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-24 湯島ベアービル7階

電話 : 03-5800-0130 FAX : 03-5800-0131

Email : info@umitonagisa.or.jp <http://www.umitonagisa.or.jp>